

<p>課題名</p> <p>自己免疫性脳炎による不随意運動の可能性を調べるための髄液検査（保険適応外）</p>
<p>(1) 新規に導入される医療</p> <p>(2) ○保険診療の対象とならない医療</p> <p>(3) 患者に不利となる可能性のある医療</p> <p>(4) その他</p>
<p>研究責任者 旭 雄士</p>
<p>概要</p> <p>金沢大学脳神経内科より紹介となった不随意運動の患者に対して、保険適応外の髄液検査をすることとなったが、施行に際し院内の倫理委員会の承認を得る必要があるため申請させていただいた。</p> <p>56歳女性、2022年より頭頸部・左下肢の不随意運動が出現。金沢大学脳神経内科で精査されたが、原因不明であった。2024年10月31日、当院昨日外科外来に紹介となった。</p> <p>埼玉医科大学脳神経内科大山彦光教授に相談・紹介したところ、機能的運動障害との診断とされた（別紙参照）。しかし、ドーパミントランスポーターシンチグラフィ（核医学検査）で取り込み低下の異常所見があり、卵巣嚢腫があることから自己免疫性脳炎に伴う不随意運動を除外する必要があるとの意見があり、下記検査（保険適応外）を勧められた。</p> <p>抗NMDA抗体（BML）：定量 25000円 抗VGKC抗体（SRL）：LGI-1抗体 42000円、CASPR-2抗体 38000円 計 105,000円が自己負担となるが、患者は検査を希望された。</p>